

文化行政の法体系

～ 文化審議会の位置づけ ～

【文化行政の法体系】

文化芸術振興基本法（H13年12月制定）

文化芸術に関する活動を行う人々の自主的な活動の促進を基本に、文化芸術の振興に関する施策の総合的な推進、心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を旨とする（議員立法）

文化芸術の振興に関する基本方針（法第7条。概ね5年間を見通して策定。）

第1次基本方針の策定：H14年12月閣議決定

第2次基本方針の策定：H19年2月閣議決定

《重点的に取り組むべき事項》

- | | |
|---------------------------|----------------|
| ①日本の文化芸術の継承、発展、創造を担う人材の育成 | ④地域文化の振興 |
| ②日本文化の発展・国際文化交流の推進 | ⑤子どもの文化芸術活動の充実 |
| ③文化芸術活動の戦略的支援 | ⑥文化財の保存・活用の充実 |

富山県民文化条例（H8年9月制定）

「国民文化祭とやま'96」（H8）等による県民の文化に対する関心の高まりを受け、県民が文化の担い手であることを基本として文化を振興し、ゆとりと豊かさが実感できる「ふるさと富山」の創造を旨とする

富山県民文化計画（条例第8条。概ね10年の計画期間）

平成10年4月 「富山県民文化計画」策定

平成18年10月 「新世紀とやま文化振興計画」策定

《基本目標》「富山から世界へ 人と文化の輝く『元気とやま』の創造」

- 《施策の柱》
- ・文化活動への幅広い県民の参加
 - ・質の高い文化の創造と世界への発信
 - ・文化と他分野の連携

富山県文化審議会（条例第24条）

文化の振興に関する基本的事項その他文化の振興に関し必要な事項を調査審議委員は、30名以内で、教育委員会の意見を聴いて知事が任命（任期2年）

富山県芸術文化振興基金条例（S57年4月施行）

芸術文化の振興を図るため、基金（関西電力株式約52万株）の運用から生ずる収益（約26百万円）を芸術文化関係団体の活動費の助成に充てる旨を条例に明記

芸術文化の振興

《平成21年度の主な芸術文化関係事業》

文化活動への幅広い県民の参加

- 身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実
- 【新】ふるさと文学わくわく学楽魅力推進事業<一部雇交> 1,570万円
(普及啓発事業等の実施、貴重な文学資料の収集、ふるさと文学の拠点の調査研究 など)
- 公立文化ホール活性化事業 1,500万円
(ネットワーク、メセナ、出前公演の支援)
- 近代美術館らく楽魅力アップ事業 180万円
(多様な世代ごとの美術鑑賞講座の開催など)
- 魅力ある企画展の開催 8,606万円
(第9回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2009 など)



文化創造への支援

- 地域文化資源を活用した取組みへの支援 500万円
(万葉集全20巻朗唱の会、スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド2009、学びの森音楽祭2009 など)
- とやま舞台芸術祭開催事業 2,000万円
- 県民芸術文化祭開催事業 1,860万円
- 芸術文化指導者招へい事業 567万円
- 美の祭典 越中アートフェスタ開催事業 500万円



文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大

- 内山邸文化の魅力再生事業 2,000万円
(主屋等保存修繕、月見会、農村文化伝承等)
- とやまの芸術家発信普及事業 650万円
(子ども、障害者、高齢者向け等の公演)



次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実

- 青少年美術展、こどもフェスティバル開催 359万円
- 子どもの読書活動推進事業(教委) 237万円
- 学校文化活動推進事業(教委) 1,490万円

※太字事業は、元気とやま創造枠事業

質の高い文化の創造と世界への発信

- 世界的舞台芸術の拠点づくり(舞台芸術特区TOGA構想)
- 【新】「シアター・オリンピックス利賀」開催事業 3,000万円
(利賀フェスティバルを拡充した世界最先端の公演、シンポジウム等)
- 【拡】利賀舞台芸術創造・発信事業 1,500万円
(利賀の舞台芸術の創造・発信、世界の作品の記録・資料集積)
- 舞台芸術人材育成事業 2,300万円
(演劇塾、演劇人コンクールの開催など)
- 利賀芸術公園定期公演
(劇団SCOT)開催事業 500万円



特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信

- 【新】ハンガリー友好交流記念事業 600万円
(長年にわたる芸術文化交流等を記念し実施)
- 第9回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2009の開催〔再掲〕 1,937万円
- ジャパン・ワイルドライフ・フィルム・フェスティバルの開催 2,200万円
(世界自然・野生生物映像祭や意見交換会の開催)
- とやま室内楽フェスティバル開催支援事業(観地)300万円
(世界的ヴァイオリニスト、シモン・ゴールドベルク氏を記念したコンサート、セミナー開催を支援)

富山固有の文化の発掘と県民による再認識・発信

- 水辺のまちづくり推進事業(観地)4,250万円
- 文化財保存整備事業(教委)1億450万円
- 世界文化遺産登録強化事業費(教委)600万円
- 景観づくり重点地域支援事業(土木)510万円
- 散居景観保全事業<主県>(農林)690万円
- 散居村ミュージアム支援事業(農林)890万円



※所管部局名の記載されていない事業は、生活環境文化部所管事業

文化と他分野の連携

文化振興と観光振興

- とやま滞在・体験型観光モデル事業(観地)300万円
- 産業観光魅力創出促進事業(観地)400万円
- 【新】国内メディア招聘事業(観地)300万円

文化を活かしたまちづくり・地域づくり

- 【新】歴史と文化が薫るまちづくり事業(観地)2,000万円
- 「くらしたい国、富山」創造ネットワーク事業(観地)1,000万円

とやまの食の魅力のアピール

- 「越中とやま食の王国」づくり事業(農林)4,022万円
- 【拡】とやま食育運動推進事業(農林)1,551万円

文化を活かした産業の振興

- 【新】デザイン戦略サポート事業(商労)1,050万円
(県内企業の魅力的な商品開発・販路拡大を総合的に支援)
- ミラノデザイン交流支援事業(商労)196万円
- 産業デザイン経営塾支援事業(商労)97万円
(富山大学芸術文化学部と連携し、県内企業のデザイン力向上への取組みを支援)
- 富山プロダクト選定事業(商労)200万円
- 富山県デザイン展等開催事業(商労)1,369万円
(デザインウェブ、県デザイン展、富山デザインフェア、工芸都市高岡クラフトコンペへの開催支援)

情報通信等技術を活用した文化の創造と発信

- 富山県映像センター運営事業(教委)840万円
- 生涯学習情報ネットワーク事業(教委)1,243万円

内山邸文化の魅力再生事業について

1 内山邸の歴史的・文化的な価値 ⇒ 平成 10 年に国登録有形文化財登録

- ① 1868 年（慶応 4 年）に建築された江戸時代の典型的な豪農屋敷の遺構をとどめている邸宅・庭園である。
- ② 郷土の開墾、農民生活、風俗文化などに関する文献や生活用品等の歴史的資料を多数所蔵している。
- ③ 江戸期の農家で、生活や作業に当たったの当時の機能（蔵、作業場等）を残しているものとしては県内随一である。
- ④ 主屋は数奇屋風の造りとなっており、近代和風建築の先駆けとして歴史的な価値が大きい。



○入館者数 H17 : 12,836 人、H18 : 16,720 人、H19 : 15,990 人、H20 : 18,904 人

2 内山邸の保存改修計画

- (1) 改修期間 平成17年～平成32年（16年間）
- (2) 全体事業費 約1億8千万円

ポイント

- ・ 建築後 140 年が経過し全体的に劣化が著しいことから、全体を 3 期に分け、計画的に改修を行う。
 - 第 1 期（H17～20）：劣化が著しく、倒壊の恐れがあり、緊急的な修繕を要する箇所
 - 第 2 期（H20～22）：損傷著しいが、緊急性を伴わない箇所
 - 第 3 期（H23～32）：経年劣化が進み、長期的には改修が必要となる箇所
- ・ 改修に当たっては、職藝学院の実習教材に提供し、修繕工事に学生が参加することで文化財の伝統的技法の伝承と経費の節減を図る。
- ・ 建築業者の施行に当たっては、文化的な価値が損なわれないよう職藝学院の上野教授の指導・助言を得ながら進める。（H21 からは設計・施工監理を委託）

3 内山邸文化の魅力発信事業

平成 21 年度
（予算：300 万円）

団体利用状況

茶 会：30 件
文 学：21 件
邦 楽：4 件
その他：81 件
（11 月末現在）

① 「夜観桜の会」（4 月 10 日～12 日）

桜の開花に合わせて夜間開放し、箏曲演奏とともにライトアップした夜桜の鑑賞会を開催。期間中 3 日間で約 3,100 人が来館。

「夜桜が日本建築にマッチして素晴らしい」と参加者から好評。

② 「観月の宴」（10 月 3 日）

夜間開放し、庭園を背景に尺八・ギターの演奏を聴きながら、中秋の名月を愛でる会を開催。

③ 「内山邸につながる文人、茶道の嗜み展」（10 月 1 日～16 日）

（文化庁プラン事業）

内山家とつながりのあった文人（徳富蘇峰、若槻礼次郎ほか）の文学資料、美術品、茶道具を展示。10 月 3 日は専門家による以下の解説会等を実施。

- ・ 内山逸峰の和歌と旅について（内山家当主 内山協一氏）
- ・ 和歌から現代短歌へー内山家の人々の言霊信仰と伝授ー（県歌人連盟会長）
- ・ 内山家に伝わる古文書解説ー内山外川について（県立図書館資料課長）
- ・ 散策しながら学ぶ 内山邸の建築美（職藝学院 上野教授）
- ・ 内山家にゆかりのある古儀藪内流による茶会（内山外川顕彰茶会実行委員会）

利賀芸術公園における事業について

利賀芸術公園の優れた舞台芸術空間とこれまでの活動実績を活かし、舞台芸術の創造・発信、人材育成、普及・教育、国際交流などの事業や、「演劇の聖地」にふさわしい環境の整備など、世界の舞台芸術の拠点づくりを推進する。

1 「シアター・オリンピックス利賀 2009」の開催

これまで長年開催してきた「利賀フェスティバル」を、「シアター・オリンピックス利賀」事業として発展的に拡充改編し、世界最先端の公演を充実するとともに、世界の舞台芸術をリードするシンポジウム等を開催。

- ・事業主体：(財)舞台芸術財団演劇人会議
- ・実施時期：8月6日(土)～8月30日(日)
- ・実施内容：
 - a シアター・オリンピックス国際委員の協力による世界最先端の舞台芸術公演の充実
H20(利賀フェスティバル) 3カ国(日、伊、露)、8作品、15公演
 - ⇒ H21(シアター・オリンピックス) 6カ国(日、豪、韓、伊、印、ギリシャ)、8作品、17公演
 - b 韓国大臣や評論家等を交えたシンポジウムの開催

2 世界の舞台芸術の拠点づくり(舞台芸術特区 TOGA 構想)の推進

(1) 舞台芸術特区人材育成事業

- ・事業主体：(財)舞台芸術財団演劇人会議
- ・実施時期：7月～9月
- ・実施内容：
 - a 俳優コース：利賀演劇塾
 - b 演出コース：利賀演劇人コンクール
 - c 総合コース：利賀インター・ゼミ(富大、全国の大学)、高校生演劇講習
 - d 舞台芸術鑑賞会等：中高生等鑑賞会、シンポジウム等



(2) 利賀舞台芸術創造・発信事業

- ・事業主体等：(財)富山県文化振興財団 通年事業
- 利賀を拠点に活動する劇団 SCOT と共同して、優れた芸術環境を活用した利賀ならではの世界に誇れる舞台芸術を創造し、国内外に積極的にアピールする。
 - a 創造事業：利賀芸術公園の自主企画作品の企画・準備、稽古、制作等
 - b 発信事業：利賀の舞台芸術の魅力を国内外に発信する公演活動等の支援

(3) 舞台芸術記録保存事業(アーカイブ事業)

- ・事業主体：(財)舞台芸術財団演劇人会議 通年事業
- 世界の舞台芸術の代表的な作品や演出、訓練の記録・資料の集積拠点とする。

3年計画

(4) 利賀芸術公園定期公演(劇団 SCOT)開催事業

利賀芸術公園を拠点に活動する世界的劇団・劇団 SCOT の公演を定期的で開催し、県民が世界的な質の高い舞台芸術を間近に見る機会を提供する。

- ・事業主体：(財)富山県文化振興財団
- ・実施時期：平成 22 年 3 月(予定)
- ・実施内容：中高生等県民向け鑑賞会(劇団 SCOT 定期公演)の開催

<参考>

人材育成事業の状況

	H19	H20	H21
利賀演劇人コンクール (H19まで演出家コンクール)	参加:演出家 13 人 (150 人)	参加:9 団体 演出家・俳優等 (90 人)	参加:9 団体 (約 100 人)
利賀インター・セミ	参加:富山大学、静岡 文化芸術大学 外 (45 人)	参加:富山大学、静岡 文化芸術大学 外 (38 人)	参加: :富山大学、静岡 文化芸術大学 外 (62 人)
高校生夏期演劇講 習	参加:県内高校演劇部 指導:大岡淳 (71 人)	参加:県内高校演劇部 指導:大岡淳 (96 人)	参加: 県内高校演劇 部 指導:原田一樹 (107 人)
大学生創作ワークショ ップ	参加:桜美林大学 指導:岸田誠、横田修 (38 人)	—	—
小学生舞台芸術講 座	小学生が俳優の訓練 を見学する講座 (50 人)	「変わる影 (ロシア影絵)」 観劇 (27 人)	—
県民鑑賞会	・利賀フェスティバル 中高生鑑賞 (266 人) ・劇団 SCOT 定期公演・ 鑑賞会 (130 人)	・利賀フェスティバル 中高生鑑賞 (122 人) ・劇団 SCOT 定期公演・ 鑑賞会 (197 人)	・ SCOT サマーシーズン 中学生鑑賞 (49 人) ・劇団 SCOT 定期公演・ 鑑賞会 (185 人) ・南砺市 5 周年記念鑑 賞事業 (250 人)
利賀演劇塾	参加:若手演劇人 45 人 指導:鈴木忠志	参加:若手演劇人 15 人 指導:エレン・ローレン 鈴木忠志	参加: 海外演劇人 9 人 指導:鈴木忠志
ススキ・メソッド・マスター クラス	参加:ロシア人俳優 13 人 指導:鈴木忠志 ※タガンカ劇場作品共同制 作	参加:韓国人俳優 17 人 指導:鈴木忠志 ※韓国作品共同制作	—
人事院国家公務員 幹部研修	参加: 36 人 (本府省課長補佐級 31 人) (民間若手幹部職員 5 人)	参加: 34 人 (本府省課長補佐級 29 人) (民間若手幹部職員 5 人)	—

ハンガリー友好交流記念事業

1 趣 旨

本県とハンガリー・ハイドゥビハール県の文化交流の歴史と、日本・ハンガリーの国交樹立140年・外交関係回復50周年を記念し、両県・両国の芸術文化交流のさらなる促進を図るため、県芸術文化協会と連携しながら、芸術文化団体及び行政の交流を含む、芸術文化の「友好交流記念事業」を実施したものの。

2 事業主体

富山県、(社)富山県芸術文化協会、ハンガリー・デー実行委員会等の各種事業実行委員会

3 事業内容

(1) 招聘事業 <事業費：1,200千円(県事業)>

- 期 間 : 平成21年9月17日(木)～22日(火・休) (富山県滞在日程：5泊6日)
- 招聘者 : ハイドゥビハール県知事等及び文化担当者等 計5名
- 目 的 : 県民芸術文化祭、ハンガリー・デー等記念行事への出席

(2) 『富山県ハンガリー・デー』の開催 <事業費：4,300千円(文化庁「地域文化芸術振興プラン推進事業」を活用)>

- 日 時 : 平成21年9月20日(日) <県民芸術文化祭開催期間中>
- 場 所 : 砺波市文化会館、砺波ロイヤルホテル
- 主 催 : 富山県ハンガリー・デー実行委員会(事務局：(社)富山県芸術文化協会)
- 内 容 : ① ハンガリー・デー記念公演の実施、各種記念展示等の実施
② 両県の芸術文化団体による芸術文化交流協定の調印
③ 両県の芸術文化団体・行政関係者等によるフォーラム・交流会の開催



(3) 友好交流派遣事業 <事業費：13,500千円(文化庁「地域文化芸術振興プラン推進事業」を活用)>

- 期 間 : 平成21年10月6日(火)～15日(木)
- 派遣先 : ハンガリー (芸術家等 22名を派遣)
- 主 催 : ハンガリー友好交流派遣事業実行委員会(事務局：(社)富山県芸術文化協会)
- 内 容 : ① 邦楽や洋舞による記念公演の開催
② 書・写真の展覧会の開催

(4) 美術交流事業(国際アート交流事業・とやま国際アートキャンプ・国際友好美術交流展の開催)

<事業費：10,000千円(県1/2補助)>

- 日 時 : 交流事業・アートキャンプ : 平成21年11月 2日(月)～18日(水)
国際友好美術交流展 : 平成21年11月14日(土)～18日(水)
- 場 所 : 県民会館、いこいの村 他
- 主 催 : 実行委員会(事務局：(社)富山県芸術文化協会)
- 内 容 : ハンガリー・中国・韓国・ポーランドの美術家を招聘し、県内美術家も加わり、ワークショップ・スケッチ交流会等の交流事業、キャンプ(作品制作)、美術展を実施

第9回 世界自然・野生生物映像祭の開催について

平成5年から隔年開催されてきた世界自然・野生生物映像祭（ジャパン・ワイルドライフ・フィルム・フェスティバル）が次のとおり開催されました。この映像祭は世界三大自然・野生生物映像祭の一つとされており、世界トップレベルの自然や野生生物の映像が集合しました。

※ 世界三大自然・野生生物映像祭とは、イギリスの「ワイルドスクリーン」、アメリカの「ジャクソンホール・ワイルドライフ・フィルム・フェスティバル」、日本（富山県）の「世界自然・野生生物映像祭」

- 1 開催期間／8月20日(木)～23日(日)
- 2 会場／(メイン会場) 富山国際会議場
(サテライト会場) 高岡市ふくおか総合文化センター
黒部市吉田科学館
黒部市宇奈月国際会館セレネ
立山カルデラ砂防博物館 (22・23日のみ)
砺波市頼成「望頼山荘」
- 3 主催／NPO法人 地球映像ネットワーク (NFN/Nature Film Network)
- 4 内容



(1) コンペティション

世界40ヶ国・地域から応募のあった347本の中から、入賞作品40本を上映、最終日に優秀作品を表彰。

- ・審査員 羽仁進監督(委員長)、太田裕久NPO代表、海外審査員3名
- ・受賞作品 大賞 「オウムの大陸」(オーストラリア)
審査委員長特別賞 「謎の生物ウルヴァリン」(ドイツ)
富山雷鳥賞 「薄氷のホッキョクグマ」(ドイツ)
ほか 全29作品

(2) 特別企画

- ・羽仁進氏や千石正一氏によるトークショー
- ・映像トークショー(海外映像作家による制作秘話)
- ・生物多様性シンポジウム
- ・ビデオライブラリー(JWF2009全応募作品347本)
- ・子ども上映会(アニメ、日本語吹替作品等) 他



(3) 知事、企業トップ、行政機関、主催団体等の方々による意見交換会

映像祭前々夜に映像祭の意義や環境保護の重要性などについての意見交換会を開催

- ・出席者 石井知事、羽仁監督、YKK(株)吉田社長、(株)北陸銀行高木頭取、上田砺波市長 など 27名
- ・内容 映像祭ノミネート作品のハイライト上映、羽仁監督による映像解説、子どもボランティアによる映像祭PR、企業トップを交えた意見交換 など

5 運営

映像祭の運営に携わるスタッフは、公募によるボランティアの皆さんにより運営。

[特に、今回、初めて1つのシアター会場を「子どもボランティア」により運営]

「第 9 回世界ポスタートリエンナーレトヤマ 2009 (IPT2009)」の開催について

日本で唯一の国際公募のポスター展として、昭和 60 年から 3 年に 1 度開催。
最先端の世界のポスターデザインが数多く展示されており、世界 5 大ポスター展の 1 つに数えられている。

今回、過去最大の 4,516 点の応募があり、応募数では世界最大の国際公募展となった。また、県内入選者数が 11 名となり過去最高となった。

- | | |
|--------|---|
| 1 会 期 | 平成 21 年 7 月 18 日(土)～9 月 27 日(日) |
| 2 会 場 | 富山県立近代美術館 |
| 3 展示作品 | 入選作品(409 点)、
審査員の作品(23 点) 計 432 点 |
| 4 応募数 | 4,516 点(過去最高、世界最大)
∴ 前回(IPT2006) 3,632 点 |
| 5 入賞作品 | グランプリ 1 点・金賞 2 点・銀賞 3 点・銅賞 10 点 |
| 6 観覧者数 | 14,136 人 ∴ 前回(IPT2006) 9,557 人 |
| 7 | PT2009 の主な取組み |



①県内外への情報発信

〈全国に向けた展開〉

- ⑨・東京巡回展（東京ミッドタウン：2 月以降、約 20 日間）

〈全県的な展開〉

- ⑨・県内巡回展〔新川文化ホール：9/30～10/4、観覧者数 585 人〕
〔ウイングウイング高岡：10/6～12、観覧者数 478 人〕

②関係団体等との連携

- ・「ポスターの街・とやま」事業〔富山商工会議所と連携〕
（商工会議所ビル壁面に超特大ポスター掲示など）
- ⑨・第 1～9 回 IPT 受賞作品を集めた名作展〔県デザイン協会と連携〕
（高岡文化ホール：10/22～25、観覧者数 445 人）
- ⑨・IPT 審査員経験者のトークショー〔富山大学と連携〕
（富大高岡キャンパス、：11/9、参加人数約 200 人）
- ⑨・各種ポスター展の連続開催〔日本グラフィックデザイナー協会と連携〕
（富山駅前「元麻布ギャラリー」東横イン内）

③デザイナーの育成

- ・小中高生のポスタースクール（近代美術館：7/4, 7/5 参加人数 18 名）
- ・著名デザイナーによる講演会〔近代美術館：7/18 参加人数 93 名〕
〔 " : 8/22 参加人数 133 名 〕
- ⑨・県内デザイナーによるギャラリートーク
〔近代美術館：7/25, 8/29, 9/19 新川文化ホール 10/2, 4〕
〔ウイングウイング高岡：10/10, 11, 12,〕
- ⑨・福田繁雄ポスター回顧展（近代美術館：6/16～10/18）
- ※ 福田繁雄：世界的なデザイナー、IPT の設立メンバー〔平成 21 年 1 月死去〕
- ⑨・ヴィエスワフ・ロソハ ポスター展（近代美術館：12/8～12/27）
- ※ ヴィエスワフ・ロソハ：IPT2009 銀賞受賞者

<参考データ>

(1) 世界5大ポスター展の開催状況

	応募			入選		
	国(地域)	人数	点数	国(地域)	人数	点数
第9回世界ポスタートリエナーレトヤマ2009	49 (52)	1,816 (1,431)	4,516 (3,632)	30 (32)	296 (299)	409 (420)
第21回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ【ポーランド】(2008)	57	1,338	3,068	—	436	672
第22回ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレ【チェコ】(2006)	46	約700	約3,000	27	109	約450
第15回ラハティ国際ポスタービエンナーレ【フィンランド】(2007)	40	—	1,683	—	—	226
第8回メキシコ国際ポスタービエンナーレ【メキシコ】(2008)	約60	—	約4,000	—	—	約300

※ 括弧内の数字は第8回(2006)

(2) 県立美術館の観覧者数の推移

(単位:万人)

年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度 (21.10未現在)	備考
近代美術館	9.3	8.8	8.8	※8.4	12.5	4.7	過去最高は 13.3万人(H5)
水墨美術館	13.7	18.2	21.3	26.3 (過去最高)	19.1	16.4	これまでの最高は 26.3万人(H19)
計	23.0	27.0	30.1	34.7	31.6	21.1	約137% (H20/H16)

※ 改修工事のため約1か月間休館

(3) 公募による美術展の入場者数

区分	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	備考
県展	8,419人	8,319人	7,864人	12,831人 〔県民会館分 8,160人〕	12,885人 〔県民会館分 8,861人〕	12,893人 〔県民会館分 8,686人〕	・S21開始 ・プロへの登竜門 ・H19 県立近代美術館を含 め3会場で開催
越中アート フェスタ			12,927人 ※巡回展を含む (本展7,163人)	14,948人 ※巡回展を含む (本展7,928人)	18,738人 ※巡回展を含む (本展11,369人)	(本展9,945人)	・H18開始 ・自由な作品の発掘 ・平面、立体の2部門
県女性美術展	3,487人	3,166人	(廃止)				・H18アートフェスタに再編
勤労者美術展	3,203人	2,360人	(廃止)				・H18アートフェスタに再編
合計	15,109人	13,845人	20,791人	27,779人	31,623人		約209% (H20/H16)

「とやま室内楽フェスティバル 2009 - in memory of Szymon Goldberg」 の開催について

1 趣旨

富山を終焉の地とした 20 世紀を代表する世界的ヴァイオリニスト、シモン・ゴールドベルクをしのび、その縁に連なる音楽家たちがそれぞれの思い出を持ち寄りながら進めるセミナー主体の音楽祭「とやま室内楽フェスティバル 2009 - in memory of Szymon Goldberg」を開催した。実施にあたっては、実行委員会を組織し、富山県内企業や団体、個人、地方自治体の支援協力を得た。

2 開催時期

2009 年 9 月 21 日（月）から 10 月 2 日（金）まで（12 日間）

3 主催者等

- (1) 主催 とやま室内楽フェスティバル実行委員会（委員長 高木繁雄）
- (2) 共催 富山県、北日本新聞社、北日本放送
- (3) 協賛 富山県内主要企業等
- (4) 後援 富山市、魚津市、県内文化関係団体、マスコミ各社 等
- (5) 協力 (財)野村国際文化財団、(財)松翁記念財団、(社)企業メセナ協議会、若林工房

4 事業内容

(1) セミナー事業

優れた室内楽の若手演奏家養成を目的とするセミナーを実施。対象は音楽大学のマスタークラス程度等とし、ゴールドベルク縁の演奏家等が直接指導を行った。特別講座等は一般に開放するとともに、セミナー成果を披露するコンサートを 2 日間にわたり開催した（うち 1 日は魚津市内小学 4 年生とその保護者ご招待）。

＜講師＞ 安芸 晶子（ヴァイオリン）、菅沼 準二（ヴィオラ）、
花崎 薫（チェロ）、ジョアン・パネッティ（ピアノ）
堤 剛（特別講座）、三上 かーりん（特別講座）

＜会場＞ 新川学びの森天神山交流館、新川文化ホール（小ホール）

＜受講者＞ 31 名（弦楽四重奏 4、三重奏 3、二重奏 3）



(2) コンサート事業

ゴールドベルク夫妻のゆかりの場所を中心に、セミナー講師を務める演奏家たちによるコンサートを開催した。

＜会場＞ 立山国際ホテル（チャペル）、富山市民プラザ（アンサンブルホール）
富山県立近代美術館（ロビー）

＜演奏者＞ 安芸 晶子（ヴァイオリン）、菅沼 準二（ヴィオラ）、
花崎 薫（チェロ）、ジョアン・パネッティ（ピアノ）、
古部 賢一（オーボエ）



世界文化遺産登録に向けた取り組みについて

1 世界文化遺産登録の取り組みの趣旨

- (1) 身近にある地域の魅力の再発見に向けて、本県の貴重な文化財の指定・登録を進めるとともに、文化財の保存の推進、公開と活用を図る。
- (2) とりわけ、世界文化遺産登録への取り組みの活動を通じて、富山の魅力の再発見、全国への情報発信に努める。

2 平成 21 年度の主な取り組み

(1) 文化財指定の推進

①文化財指定

- ・「前田利長墓所」の国史跡指定（平成 21 年 2 月 12 日）
- ・「越中福岡の菅笠製作技術」の国重要無形民俗文化財指定（平成 21 年 3 月 11 日）
- ・「白岩堰堤砂防施設」の国重要文化財指定（平成 21 年 6 月 30 日）

②市町村の支援

- ・高岡市城下町関連資産調査
- ・高岡市無形資産データ資産調査
- ・黒部川発電施設群の文化財管理計画策定調査
- ・立山信仰の石造物調査

(2) 県民意識の醸成

①国際砂防フォーラム 2009 の開催

10 月 16 日（金）、インテックスカイホール、国際産業遺産保存委員会スチュアート・スミス事務局長による講演など

②民間の事業やイベントへの支援

「世界文化遺産をめざす高岡市民の会」や「『立山・黒部』ゆめクラブ」への支援

(3) ユネスコ本部への働きかけ

- ・訪問者 石井知事
- ・期 日 平成 21 年 10 月 28 日
- ・訪問先 松浦ユネスコ事務局長、山本ユネスコ日本政府代表部大使

〈参考〉

1 富山県からの提案案件について

(1) 近世高岡の文化遺産群

- ①勝興寺や高岡城跡など 22 件を構成資産として平成 19 年 12 月に再提案
- ②平成 20 年 9 月に「暫定一覧表候補の文化資産」として評価付け

(2) 立山・黒部～防災大国日本のモデルー信仰・砂防・発電ー

- ①白岩砂防堰堤など 33 件を構成資産として平成 19 年 9 月に提案
- ②平成 20 年 9 月に「暫定一覧表候補の文化資産」として評価付け

2 世界遺産の現状等

- (1) 世界遺産の件数 148 箇国の 890 件（文化遺産 689、自然遺産 176、複合遺産 25）
- (2) 日本の件数 14 件（文化遺産 11、自然遺産 3）
- (3) 富山県の世界遺産 「白川郷・五箇山の合掌造り集落」（平成 7 年 12 月登録）

「歴史と文化が薫るまちづくり事業」について

1 概要

(1) 事業の趣旨

歴史的・文化的な地域資源を活用した地域づくりを推進するため、有識者等で構成する検討委員会において、歴史と文化が薫るまちづくりのあり方等について意見を聞くとともに、モデル地域で実施する事業に対して県が助成し、観光振興や地域の活性化を図るもの。

(2) 「歴史と文化が薫るまちづくり事業」検討委員会

観光、景観、まちづくりなどに関する有識者等 12 名の委員（特別委員 2 名含む）で構成（委員長 朝日重剛富山商工会議所副会頭）

(3) モデル地域に対する支援措置

① 補助対象事業者

市町村又は商工会、観光関係者、NPO 等の各種団体

② 補助内容

- ・ソフト事業 定額 1,000 千円以内（知事特認の場合 2,000 千円以内）
（計画策定に際しての市町村委員会運営、セミナー等開催、イベント実施費など）
- ・ハード事業 限度額 10,000 千円（2 分の 1 補助）
（歩道のタイル舗装、町並み修景、案内看板設置、ポケットパーク整備、電柱移設、施設改修費など）

③ 事業期間

- ・3 年以内

2 21 年度モデル地域

市	エリア	市町村から提案された主な地域資源
高岡市	高岡古城公園～大仏～山町筋～金屋	町衆が守り育てた歴史的街並み（古城公園、大仏、山町筋と金屋など）
魚津市	戦国山城と魚津城、米騒動の蔵、大町周辺	松倉城跡、魚津城跡等を中心とする城壘群、戦国のろし祭り、たてもん祭りなど
氷見市	海鮮館～からくり時計周辺	氷見ブランド化した食文化、アニメなど
黒部市	生地地域	黒部川扇状地湧水群の清水 18 箇所、漁業の町の風情、魚の駅「生地」等の観光・文化施設など
南砺市	城端地域	城端の善徳寺等の歴史的建造物、千本格子の古い町並み等の観光・文化施設、アニメなど

3 今後のスケジュール

22 年 1 月中旬に第 4 回検討委員会を開催、各モデル地域を有する市が作成したまちづくり事業計画最終報告書について検討予定

地域文化芸術振興プラン推進事業の概要

1 目 的

都道府県が企画する地域の芸術家や芸術文化団体、伝統文化保存団体等を活用した取組みを支援し、特色ある地域文化の振興など地域の「文化力」の向上とともに、文化芸術活動の活発化により地域経済の活性化を促す。

2 対象事業

都道府県において、実行委員会（都道府県、市町村、芸術団体、教育機関、文化施設等の関係者により構成）を設置し、「地域文化芸術振興プラン」を策定し、当該プランに基づき実施される特色ある文化芸術に関する取組みを文化庁が支援。（上限1億円）

3 富山県地域文化芸術振興プラン

(1) 基本的な方針

- ① 文化活動への幅広い県民の参加
- ② 質の高い文化の創造と世界への発信
- ③ 文化と他分野の連携

(2) 請負額 99,890千円

(3) 事業実施期間 平成21年 9月 1日 ~ 平成22年 3月31日

(4) 具体的なプラン事業 22事業（別紙参照）

質の高い文化の創造と世界への発信

布橋灌頂会



文化活動への幅広い県民の参加

県水墨美術館開館10周年記念
～庭園で楽しむ芸術文化フェスティバル



文化と他分野の連携

山川海の芸術ワンダーランド黒部



富山県地域文化芸術振興プラン個別事業

文化活動への幅広い県民の参加

身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実

- ・**高岡の名宝展 800万円**
(高岡開町400年を記念し、高岡に深い縁を持つ前田家の文化や美術品を紹介する展覧会を開催)
- ・**ふるさと文学普及啓発事業(仮称) 200万円**
(「ふるさと文学」の魅力を伝えるため、県西部地域をモデルに普及啓発・資料発掘キャンペーンを実施)
- ・**内山邸に集った文人墨客、茶道の嗜み展(仮称) 200万円**
(農豊の館 内山邸(国登録有形文化財)にまつわる資料、茶道具、美術品を一同に展示)

文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大

- ・**大伴家持下向の旅 200万円**
(大伴家持が辿った奈良から高岡までの旅を体験するイベントを開催し、各地で交流会等を開催)
- ・**伝統芸術フェスティバル2009(仮称) 1,050万円**
(茶道・華道・邦楽など「伝統芸術」を嗜む茶会、華道、親子体験教室などの開催)
- ・**県水墨美術館開館10周年記念
～庭園で楽しむ 芸術文化フェスティバル～ 500万円**
(大型企画展の開催に合わせ、邦楽、日舞、華道、茶道各団体の協力による公演、華展、お茶も楽しむ芸術文化イベントの開催)

次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実

- ・**全国高総文祭1000日前プレイベント 200万円**
(平成24年に予定されている「全国高等学校総合文化祭」のプレイベントを開催)



質の高い文化の創造と世界への発信

世界的舞台芸術の拠点づくり(舞台芸術特区TOGA構想)

- ・**SCOT特別講演・鑑賞会開催事業 500万円**
(世界的に活躍する演劇集団「劇団SCOT」の演劇公演を開催)
- ・**SCOTウインターシーズン利賀芸術公園事業 750万円**
(多彩な劇場環境を利用し、演劇のみならずダンスや音楽の公演を実施)

特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信

- ・**ハンガリー・デー開催事業 400万円**
(ハンガリーとの文化交流の歴史を記念した講演・フォーラム・交流会の実施)
- ・**ハンガリー友好交流派遣事業 1,350万円**
(ハンガリーへ友好交流訪問団を派遣し、記念公演や展覧会を実施)
- ・**世界ポスタートリエンナーレトヤマ巡回展 1,100万円**
(世界ポスタートリエンナーレトヤマの魅力を広く発信する巡回展の実施(東京及び県内))
- ・**イダ・ヘンデル ヴァイオリンリサイタル 200万円**
(世界的ヴァイオリニスト シモン・ゴールドベルク氏生誕100周年にあわせ弟子のイダ・ヘンデル氏によるコンサートを開催)



富山固有の文化の発掘と県民による再認識・発信

- ・**庵唄伝承・技術向上事業 150万円**
(城端曳山祭(国重要無形民俗文化財)の庵唄の伝承・技術向上を目指し指導事業を実施)
- ・**出町子供歌舞伎曳山会館開館記念事業 250万円**
(記念式典、記念講演・ステージ、ワークショップの開催)
- ・**布橋灌頂会 600万円**
(立山信仰の基軸行事の一つである「布橋灌頂会」を体験し、立山信仰に対する理解を深めてもらう)

文化と他分野の連携

文化振興と観光振興

- ・**五箇山麦屋100年祭(仮称) 300万円**
(平家の歴史、源氏に追われ落人となる伝説を辿る創作演舞や五箇山麦屋により、五箇山の歴史を辿る)
- ・**雪の越中唄街道(仮称) 300万円**
(冬の合掌造りのライトアップとともに、伝統芸能「こきりこ」や「報恩講料理」など食文化の魅力を観光活用)
- ・**おわら風の盆の映える文化のまちづくり事業 300万円**
(冬の石垣の町並みのライトアップとともに、伝統芸能「おわら」の魅力観光活用)

文化を活かしたまちづくり・地域づくり

- ・**寺のまちアートinいなみ2009 150万円**
(寺、民家等におけるアート作品の展示等による「木彫りと瑞泉寺」を中心とした井波を発信)
- ・**「じょうはな座」活用伝統文化発信事業(仮称) 100万円**
(「じょうはな座」を活用した、庵唄等の公演、シネマ歌舞伎の上演等を実施し、魅力あるまちづくりに繋げる)
- ・**山川海の芸術ワンダーランド黒部事業 389万円**
(宇奈月温泉街のアート、近隣の「日本の三奇橋」愛本刼橋と当地に伝わる大蛇伝説や、生地地域の魅力をまちづくりや観光振興に活かす)

芸術文化の振興による「元気とやま」の創造

ふるさと文学の振興について

1. 取組みの考え方

グローバル化や情報化が進展する中で、富山ゆかりの「ふるさと文学」は、郷土の歴史や文化を再認識し、ふるさとの良さを継承、発展させていくための大切な手立てであるとの考えから、ふるさと文学の振興を図るもの。

○ 背景

- ・ 貴重な文学資料が散逸する懸念
- ・ 富山の作家や、富山を舞台とした作品を紹介する仕組みが必要
- ・ 若者の活字・文学離れが著しい
- ・ 幅広い文化施策の一つとして文学分野への積極展開も大切

※ふるさと文学 … 富山ゆかりの作家や富山を舞台とした作品。映画、漫画、アニメ等も含む。

2. これまでの経緯

(1) 平成 20 年度

- ① 「ふるさと文学魅力推進検討委員会」（会長：西頭徳三 富山大学長）を6月に設置。
- ② 10月に県民アンケート調査を実施。主なものは次のとおり。

ふるさと文学の振興に取り組むべきとの意見	89.8%
ふるさと文学に親しみ学ぶための拠点が必要であるとの意見	75.7%
- ③ 21年2月に「ふるさと文学の振興に関する報告書」をとりまとめ、知事に提出。

○ 検討委員会報告書 — 基本的な方向性の要点 —

- a 県民がふるさと文学に親しみ、学び、創り、発信することのできる機会の提供に努めること
- b 富山ゆかりの貴重な文学資料を収集、分析、保管する仕組みを構築することや、**拠点づくりについて具体的な検討に着手し、必要な基盤づくりに努めること**



拠点施設の立地条件についての意見

「拠点施設は、アクセスしやすく、高齢者から子どもたちまで多くの県民や、また、観光目的で来県した人も、誰でも気軽に立ち寄ることができるように、できれば交通の便も比較的良い市街地に在ることが望ましい。」

(2) 平成 21 年度

a ふるさと文学に親しみ、学ぶ機会の提供

富山バーチャル文学館（仮称）の開設準備（22年度開設）

富山ゆかりの作家、作品の紹介や、図書館蔵書、資料の検索、関連情報の案内などを行うホームページの開設準備を行う

県民ニーズを踏まえた様々な事業の実施

- ふるさと文学ゆかりの地を巡る散策ツアーの実施
- 富山大学との連携によるふるさと文学県民講座の開催
- 県郷土史会の協力によるふるさとの歴史と文学入門講座の開催
- 読み聞かせ活動などの県民によるふるさと文学魅力紹介活動への助成
- ふるさと文学を紹介するケーブルテレビ番組の放送
- 郷土に伝わる民話朗読ラジオ番組の放送 など

b 文学資料を収集、分析、保管する仕組みの構築、拠点づくりの検討

- ① 「ふるさと文学資料評価・活用委員会」(会長:平田純 県芸文協名誉会長)を6月に設置。
- ② 収集した資料にふさわしい展示・紹介方法や拠点施設について検討中。

第1回(6月)

拠点のあり方や、発掘チームの発足など文学資料を収集する仕組み等について議論

第2回(7月)

拠点を整備するならば、どのような機能が必要かということについて、他県の事例等を参考に概括的に議論

第3回(11月)

専門コンサルタントによる調査結果を踏まえたデータ等をもとに、拠点施設に必要な機能や規模について、整備手法別(新築と既存施設活用の場合)に分けて議論。

併せて、拠点施設の候補地のひとつとして知事公館を提案しご意見をいただく。

⇒ **知事公館を拠点施設の候補地とすることについて、全員が賛同**

3. 知事公館を拠点施設の有力な候補地とした背景

- ① 富山市の中心部に位置し、松川や城址公園などの観光スポットからも近く、富山駅や市電、バス停からも便利であるなど、県民の皆様や観光客が気軽に立ち寄れる場所にあり、「ふるさと文学魅力推進検討委員会」の報告書で示された、拠点施設の立地条件に合致していること
- ② 知事公館は、主として文学団体に利用されており、落ち着いたある建物や庭園は、ふるさと文学の施設としてふさわしいと思われること

* (利用状況)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
件数	342	444	608	657	696
利用人員	4,852人	6,300人	7,530人	7,764人	7,854人

* (分野別利用状況)

文学関係(俳句・短歌・川柳・朗読・読書等)	51%
その他文化団体(茶道・生活文化等)	26% など

- ③ 知事公館を含めた周囲の県有地は、学校や教育文化会館などがある公共・文教ゾーンにあり、県の行政改革委員会から、21年2月に、公的活用も含めて有効に活用する方策を検討すべきことのご提言をいただいたこと

＜参考＞知事公館を廃止する理由

- ① 昭和53年に竣工した建物の老朽化が進み、機能の維持には近い将来大規模な改修が必要となること
- ② 維持管理費として毎年度1,000万円近くの経費が必要となってきたこと
- ③ 公邸として賓客を迎える機能等もあるが、この5年間、活用した実績がないこと

4. 今後の方向

来年1月中下旬までに、「ふるさと文学資料評価・活用委員会」において、拠点施設整備に関する基本的な方針を取りまとめていただく予定であり、幅広く県民の皆様の賛同が得られるようであれば、知事公館を活用した改築等に向けて、諸準備を進めてまいりたい。

知事公館の概要

1 所在地 富山市舟橋南町2-2

2 敷地面積 4,541.11㎡

3 建物
構造 鉄筋コンクリート造り一部2階建て
建面積 465.32㎡
延面積 560.87㎡

① 県民の利用場所及び人員 410.20㎡
 応接室(42㎡) 10~20人
 和室(10畳2間) 10~30人
 和洋室(36㎡, 和室8畳) 10~15人
 茶室(2階8畳, 3畳) 10~12人

② 私邸スペース 150.67㎡

4 沿革
 昭和53年12月 知事公舎竣工
 昭和56年 4月 知事公館に名称を変更し、県の会議等に使用するほか、県内の文化団体の活動(短歌、お茶等)等を行う団体や県民に有料で開放



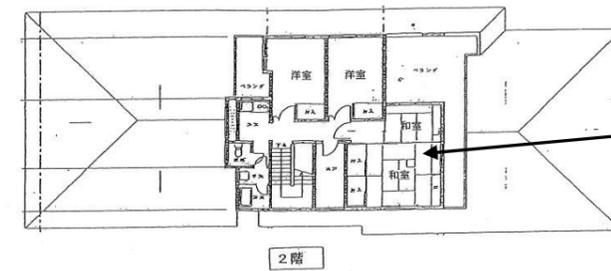
庭園(初夏)



庭園(晩秋)



私邸スペース 書斎



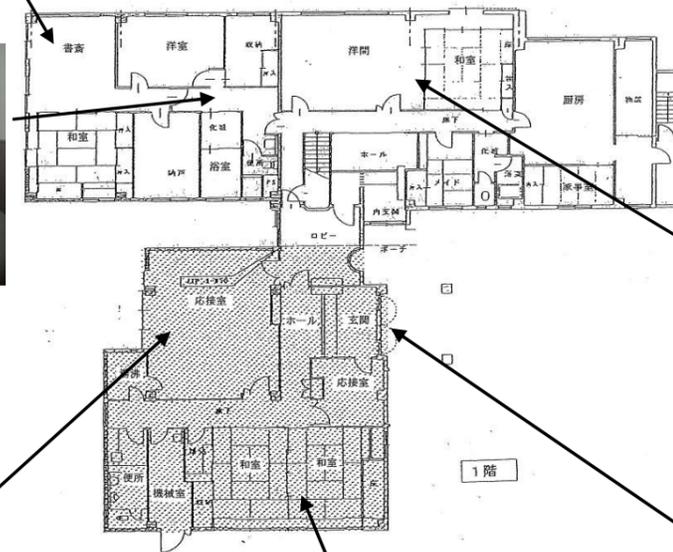
2階



茶室



廊下



1階



和洋室



応接室



和室



玄関

新世紀とやま文化振興計画の見直しについて

1 現行計画の概要

平成18年10月 「新世紀とやま文化振興計画」策定（概ね10年の計画期間）

《基本目標》「富山から世界へ 人と文化の輝く『元気とやま』の創造」

《施策の柱》

- ・文化活動への幅広い県民の参加
- ・質の高い文化の創造と世界への発信
- ・文化と他分野の連携

2 見直しの理由

上記の計画期間に関わらず、現計画策定以降、文化行政を取り巻く環境の変化、新たな施策・事業の展開等、大きく状況変化等が生じていることから、改めて現状と課題の把握・再整理を行い、将来に向けた施策の方向性を再検討するもの。

《環境の変化》

- 特色ある地域文化への関心の高まり
- 本県出身の芸術文化関係者の活躍
- 厳しい経済情勢

等

《新たな施策・事業展開の例》

- 劇団SCOTの利賀での活動再開
- とやま世界こども舞台芸術祭の開催
- ふるさと文学の振興

等

3 スケジュール（案）

《平成22年度：2～3回程度 文化審議会を開催》

- 知事から計画策定について諮問
- 計画の骨子（たたき台）の審議
- 計画策定に向けた論点整理

《平成23年度：2回程度 文化審議会を開催》

- 中間報告（案）について審議
- 計画（案）について審議